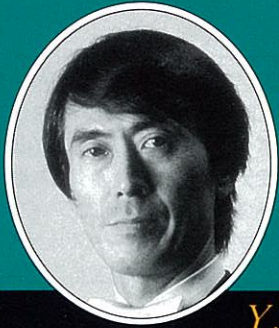


Osaka Philharmonic Orchestra

モーツァルト・プログラム

- セレナード 第13番 ト長調 K.525
「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
- ピアノ協奏曲 第22番 変ホ長調 K.482
- 交響曲 第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

指揮：手塚 幸紀
ピアノ：野島 稔
管弦楽：大阪フィルハーモニー交響楽団



Y.tezuka



M.nojima

大阪フィルハーモニー 交響楽団



平成6年度 文化庁移動芸術祭オーケストラ公演

主催＝文化庁／兵庫県／篠山町／兵庫県教育委員会／篠山町教育委員会

6月14日(火) 開場＝午後6時30分 開演＝午後7時00分 たんば田園交響ホール

入場料＝大人3,700円 学生1,500円

前売開始＝4月14日(木)

前売所＝〈篠山町内〉書店・楽器店 〈多紀郡内〉各町公民館・リプロ・JA丹波旅行センター・NEWS丹南店総合サービスセンター
〈氷上郡〉春日町文化ホール・柏原観光案内所 〈三田市〉ニチイ三田店サービスコーナー 〈その他〉チケットぴあ

お問い合わせ＝たんば田園交響ホール ☎0795-52-3600

充実した演奏をお届けします。



手塚幸紀

●指揮

Yukinori Tezuka

1940年東京生まれ。58年東京芸術大学器楽科にフルートで入学。齊藤秀雄氏に指揮法を学び、学内で指揮活動を行う。64年に指揮科に再入学し、渡邊暁雄氏、山田一雄氏に師事する。67年民音指揮者コンクールで第1位を受賞。芸大卒業後ベルリンで学ぶ。この間にベルリン放送響を指揮。帰国後、70年日本フィル指揮者に就任、日本フィルをはじめ各オーケストラの定期演奏会や、テレビ、ラジオに出演し活動を広げる。71年文化庁派遣在外研修員としてヨーロッパ・アメリカで研修を積み、翌年帰国。72年10月から83年3月まで大阪フィル指揮者、83年4月から85年3月まで京都市響正指揮者をつとめ、また72年から92年までは新日本フィル指揮者団に名を連ねた。87年4月から92年3月まで群馬交響楽団常任指揮者をつとめて群馬の発展に力を尽した。日本の主要オーケストラへの客演も数多く、常に安定した高い評価を得ている。

1945年横須賀生まれ。3才からピアノを始め、桐朋学園高校、大学、旧ソ連留学まで井口愛子氏に師事した。66年にはモスクワ音楽院に2年間留学、レフ・オボーリン氏に師事した。70年ニューヨークのカーネギーホールでデビュー・リサイタルを開き、大成功を収め、以来ニューヨークと東京を本拠に、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地でリサイタル、オーケストラとの協演、室内楽などの活動を行っている。日本を代表する国際的ピアニストであり、NHK交響楽団をはじめ、日本の主要オーケストラとの協演は数えきれず、各オーケストラとの海外公演にも度々ソリストとして同行している。93年には、各地でのリサイタルのほか、大阪フィル、NHK響、新日本フィル等の定期演奏会に招かれており、近年のめざましい充実ぶりからも、ピアノ芸術の真髄を伝える貴重な演奏家として今後のいっそうの活躍が期待されている。

野島 稔

●ピアノ

Minoru Nojima



●大阪フィルハーモニー交響楽団

大阪フィルハーモニー交響楽団は、1947年関西で初めてのプロオーケストラ「関西交響楽団」として発足、60年「大阪フィルハーモニー交響楽団」に改組。以来40数年間、一貫して常任指揮者を朝比奈 隆が務め、「個性と魅力溢れるオーケストラ」として親しまれている。

定期演奏会は大阪での年8回をはじめ、他府県（東京・神戸・尼崎2・岐阜・岡山）での6回と年に14回行っており、各地で毎回熱狂的な支持を得ている。

海外においては、過去3回のヨーロッパをはじめ、アメリカ、カナダ、韓国、台湾と招かれ、ベルリン、ウィーン、ロンドンなど各地で最高の賛辞を得た。

又、レコーディング活動も活発でベートーヴェン交響曲全集（4回）、ブラームス交響曲全集の他、現在2度目のブルックナー交響曲全集を録音中。日本で一番多くのレコード・CDを出しているオーケストラでもある。

